

研究テーマ： 地域総合研究の一環としての竹原・吉井家資料の調査および基礎的研究	
研究代表者（職氏名）：教授 西本寮子	所属：人間文化学部国際文化学科
共同研究者（職氏名）：広島県立文書館主任研究員 西村晃、同副主任研究員 西向宏介 人間文化学部教授 樹下文隆・菅原範夫	

I 研究までの経緯

竹原の吉井家には、近世竹原の学芸史および地域文化研究に欠かせない多くの貴重な資料が伝わっている。平成18年6月にその資料の一部が広島県立文書館の寄託となった。膨大な資料のなかに三百余点（タイトル数）の和漢書など文芸関係資料が含まれていたことから、地域総合研究の一環として広島県立文書館と共同で調査・研究をおこなうこととした。

II 調査・研究の手順

18年度は以下の三つの目標を掲げた。すなわち「吉井家資料の全容解明に向けて、資料・記録類の調査・整理に着手すること」「資料の全体像を大まかに把握し、年次計画に基づいて基礎調査を開始すること」「調査結果に基づいて第一次仮目録を作成すること」である。

書物は代々の所蔵者によって整理され、大切に保管されてきたことが知られる。しかし、刊行後あるいは入手後二百年近くを経ている資料も含まれ、劣化の激しい一部の資料については基礎データの収集を断念せざるを得なかった。資料の伝存状況から、悉皆調査による書誌データの記録が急務であると判断し、18年度においては調査可能と認めた和漢書二百七十点ほどを調査対象とし、そのすべてについて、書名・刊行（書写）年・版元（書写者）・書き込みや印の有無などの基礎的な書誌情報を収集、記録することとした。

III 調査結果の概要

IIに記した方針に従って「吉井家蔵書第一次仮目録」（平成19年3月現在）を作成し、整理のために一部写真撮影したデータとともに文書館に提供した。目録については、文書館の担当者から所蔵者にも報告された。

吉井家に伝わった書物のジャンルは漢籍類のほか教訓書、軍書、俳諧関係書、読本の類まで多岐にわたる。18年度に調査対象とした資料からは、芸南諸地域で当該地域のリーダーとしての役割を果たした家の蔵書に共通して認められる特徴のほか、頼家の周辺にあつて、竹原の学芸の発展に多大な功績を残したことで知られる吉井家蔵書固有の傾向が見受けられる。主な特徴としては、神道関係書に貴重な資料が含まれること、和歌関係書に他家ではあまり見受けられない写本類が見受けられること、広島県内に現存する書物としては早い時期に刊行されたものが含まれること、書物の入手経路に特徴が認められることなどが挙げられる。

IV 今後の研究計画と展望

地域の文芸は当該地域の経済活動と深く結びついて発展するという側面がある。吉井家資料は商家文書として質、量ともにもすぐれており、地域文化解明のための資料の宝庫である。文書については共同研究者である文書館の研究員によって整理・研究がすすめられているが、その過程で、文書類に地域の文芸に関わる貴重な記録が含まれることが判明した。

18年度の成果を踏まえ、新たに存在が判明した記録類および18年度に調査に至らなかった資料の調査をすすめ、文芸的側面から竹原文化の一端を解明することをめざして、19年度においても研究の継続を申請、採択された。